

「長町小学校福祉学習」報告

令和8年1月24日

令和8年1月23日（金）に、長町小学校の4年生106名を対象に福祉学習を行いました。講師として仙台市視覚障害者福祉協会 副会長であり、仙台市障害者相談員の嶋原 真一相談員にご協力いただき、講話と視覚障害体験を実施しました。

初めに講話として嶋原相談員より、視覚障害者の生活についてお話をいただきました。日常生活の状況について、外出について、書くことについてとテーマを分けながら工夫していることや昔と今の違いや便利になっている状況など生活に即した内容で話していただきました。

次に、目隠しジャンケンを児童に行ってもらいました。まず、グループを作り、目隠しをしてジャンケンをするには、どの様にすればできるのかを話し合ってから行ってもらいました。色々話合いつつも、比較的スムーズに勝敗を決めれる方法を発見することができていました。

最後に目隠しをして、白杖を持った児童と介助する児童で、ペアを作りコースを歩く体験をしてもらいました。目隠しをして白杖を持ち歩くこと、目隠しをした児童を誘導することによってすぐ順応できる児童もいれば、誘導することに意識が強くなり、介助する側が相手を手で掴んで歩こうとしている児童も何人か見受けられました。目が見えないと困ることはあるけれど、工夫をすれば出来ることがあるという嶋原相談員の言葉を、実際に体験出来た機会になったと思います。嶋原相談員には、児童からの質問にも答えていただきました。児童からは、「視覚障害で困っている人がいたらどうすればよいのか」「料理はどうしているのか」「地震の時はどうしているのか」「東日本大震災の時はどうしていたのか」等、色々な質問があがっていました。

嶋原相談員のまとめの話で、障害のある無し関わらず、困っている人に声をかける勇気と優しさを持った人になって欲しい。障害を持つ人を違った目で見て欲しくない、皆同じ世界に生きている人として見て欲しいという言葉で閉会となりました。

児童からの感想で「一生に一度の貴重な体験」との感想も聞かれ、障害当事者である嶋原相談員の言葉は、児童たちの心に響いたのではないかと思います。

今回の福祉学習で、障害のある人となない人が共に生活していくきっかけとなり、住みやすい街づくりに向けた取り組みが、これから先もつながっていくことを期待します。



